

開催報告

第 45 回地盤工学研究発表会

前田工織（株）地盤防災推進部 久保 哲也

第 45 回地盤工学研究発表会が、愛媛大学城北キャンパスにて平成 22 年 8 月 18 日（水）から 20 日（金）の期間で開催されました。補強土に関連する主な発表は、地盤と構造物 - 補強土(1)～(3)、地盤材料 - 補強材(1)、(2)および補強土壁・盛土のセッションで行われました。

地盤と構造物 - 補強土(1)のセッションでは 6 編の発表があり、主に鉄部材を補強材とする補強土についての研究成果が報告されました。特に、異常気象時や経年変化時における補強土の挙動に関する研究が多くあり、今後、補強土の維持管理を行う上で必要とされる内容の研究発表でした。

地盤と構造物 - 補強土(2)および(3)では、各々 7 編の発表があり、主にジオシンセティックスに関連する研究成果が報告されました。GRS 一体橋梁の背面盛土にジオセルを引張補強材として用い、その耐震性能を評価した研究や、バングラディッシュにおける波浪浸食対策工として土のう工法を適用した施工事例の報告などがありました。現場状況などを考慮し、有効な工法を適用することは、土木技術の原点であると考えられ、今後の展開に期待できる報告内容でした。

地盤材料 - 補強材(1)、(2)および補強土壁・盛土のセッションでは、短繊維を用いた補強土の力学特性や、深層混合処理工法（改良柱体）とジオグリッドとの併用工法におけるジオグリッドの三次元変位特性に関する研究などが報告されました。

8 月 19 日には、「既設盛土の地震時挙動と設計・点検手法」と題した DS セッションが開催されました。土構造物の安定性（耐震性、締固めなど）について活発な議論が行われていました。

展示ブースについては、昨今の土木業界の現状より、本年度も少数であったと感じられましたが、熱心に質問される方、工夫を凝らして説明される方などが見受けられました。

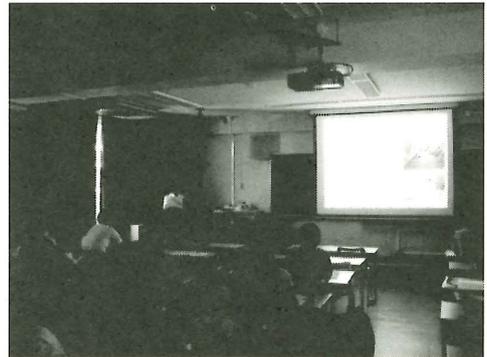


写真-1 発表状況



写真-2 展示ブース